

浅草靴工場見学ツアー

靴の製造工程と検品チェックの実際

●大坂の食いだおれ、京の着だおれ、江戸の履きだおれ——といわれた江戸時代からの下駄、草履、鼻緒問屋街だった花川戸。日本の革靴生産がスタートした明治初期から、その中心産地として、栄えてきた浅草の今戸、橋場、清川、東浅草地区。

●昭和20年代(1950年代)以降は、近代工業化、大量生産、ファッション化がすすみ、産業はピークを迎え、その後、国際分業化の時代に対応して、メイドインジャパンの高品質な靴づくりに取り組む——浅草靴産業。



松崎製甲
今戸2丁目

靴のアップーを縫い、組み立てる小さな加工所。昔は多かった作業場も今や残っているのは数えるほど。



川島商店
今戸2丁目

靴の中底、中敷の加工、組み立てなどのメーカー。裁断・箔押し・縫製などの連携で作業が進められる。



パナマシューズ
今戸1丁目

1958年設立の婦人靴メーカー。靴の街・浅草をリードしてきたメーカーの一つであり、底付け工程を一貫体制で行う台東区内では、数少ない企業。

奥浅草靴メーカー・各種加工場街



皮革技術センター 台東支所

靴及び靴材料に関する専門試験機関。アップーの強度、ヒールの強度などを各種方法で検査、また研究している。

浅草靴問屋・皮革問屋街

花川戸「履物、問屋街」

集合 午後1時
東京都立皮革技術センター
台東支所1階